

令和4年度「現代社会」シラバス

【単位数：2単位 履修年次：1年次】

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	1 現代社会の様々な問題に興味関心を持ち、その特徴を正しく理解できる 2 人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野にたつて、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。
使用教科書 副教材等	高等学校 『新現代社会』（帝国書院）

2. 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画など

学期	月	学習内容	学習のねらい
前期	4	オリエンテーション 第1部 現代社会の諸課題とその捉え方 「環境」 「人口・資源・エネルギー」	<ul style="list-style-type: none"> 学習の方法や評価の仕方を理解する。 人間の活動により生じている環境問題が、人間の営みをおびやかしている現状について理解し、様々な環境問題の現状と、解決に向けた取り組みについて理解する。 資源・エネルギー問題について多面的に理解し、低炭素社会の実現のための課題や持続可能なエネルギー利用の実現について考察する。
	5	第1部 現代社会の諸課題とその捉え方 「生命」 「情報」	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達が人類にもたらす恩恵と影響を理解し、生命の誕生への介入や死の定義への対応を通して、人間の尊厳や生命倫理について考察する。 情報化の進展が生活や社会の変化に及ぼした影響を理解し、情報化社会の課題や未来について考察する。
	6	第2部 現代社会のしくみと私たちの生き方 第1章 現代の社会と自己実現 「青年期の意義」	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。 現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察する。
	7	「よく生きるとは」	

	7 8	第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理 「民主社会の原理と日本国憲法」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権が権利として認められるようになった過程と民主政治の歩みを理解する。また、法の支配の意味を理解する。また、近代立憲主義の考え方を理解し、国家の役割について理解する。 ・ 日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。
	9	第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理 「日本政治機構と政治参加」 前期のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深める。 ・ 法に関する基本的な考え方を身に付けさせる。 <p>前期の学習を振り返る。</p>
【課題・提出物等】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ごとのプリント提出 2 必要に応じて課題を提出させる場合もある。 			
【前期の評価方法】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加意欲や態度・授業プリント・発問評価・授業ワーク・定期考査等で評価する。 2 定期考査等6割程度、提出物・授業態度など4割の配分で評価を行う。 			
後期	10	後期オリエンテーション 第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理 「日本政治機構と政治参加」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の方法や評価の仕方を理解する。 ・ 民主社会における政治参加や選挙の意義を理解し、選挙制度の課題を考察する。 ・ 日本国憲法における第9条（平和主義の意味を理解する。また、日本の安全保障と核兵器に関して、歴史的な経緯をふまえて考察する
	11	第3章 現代の経済と国民の福祉 「市場経済のしくみ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場経済の考え方を通して、経済の循環と分業について理解する。市場経済における価格のはたらきについて理解し、資源の適正な配分について考察する。また、景気や物価の変動が生活に及ぼす影響を考察する。 ・ 企業活動の目的や株式会社のしくみを理解し、企業の社会的責任を確認するまた、日本経済における中小企業や農業の状況を確認し、その課題について考察する。

後期	12	第3章 現代の経済と国民の福祉 「豊かな社会の実現をめざして」	<ul style="list-style-type: none"> ・公害問題や環境保全対策にはどのようなものがあり、どのように変化してきているのかを理解する。 ・消費者問題について理解するとともに、消費者の権利と保護について理解する。 ・近年の雇用や労働をめぐる現状や課題について理解する。 ・日本の社会保障の現状と課題について理解する。
	1	第4章 現代の国際社会と日本の役割 「国際経済の動向と貧困の解消」	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の意義や更生を確認し、ナショナリズムと国際法の関係について考察する。国際社会における紛争や内戦の原因を理解し、解決に向けた取り組みを考察する。核兵器の所有が国際社会に及ぼす影響を理解し、平和を実現する方法を考察する。
	2	「国際政治の動向と平和の追求」	
	3	第3部 共に生きる社会をめざして 第1章 持続可能な社会のために 「持続可能な社会の形成」	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で得られた知識や見方・考え方などを生かし、持続可能な社会の形成に向けた課題について主体的に追究し、現代社会のまとめの学習となるようにする。

【課題・提出物等】

- 1 授業ごとのプリント提出
- 2 冬休み等、必要に応じて課題を提出させる場合もある。

【後期の評価方法】

- 1 授業への参加意欲や態度・授業プリント・発問評価・授業ワーク・定期考査等で評価する。
- 2 定期考査等6割程度、提出物・授業態度など4割の配分で評価を行う。

(2) 評価の観点

	評価の観点および内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命最後までやろうと努力する意欲や態度がみられるか ・我が国や郷土の歴史に対する関心を高めているか。 ・意欲的に課題を追求するとともに、歴史の学習を通じて、国民としての責任を果たそうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での態度 ・授業プリント ・発問評価 ・授業ワーク ・定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の展開から課題を見いだそうとしているか。 ・世界的視野に立って我が国を取り巻く国際環境を関連づけて 多面的・多角的に考察しているか。 ・国際社会の変化を踏まえ、公正に判断できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ワーク ・発問評価 ・発表評価 ・定期考査
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する基本的な知識を身につけ理解しているか。 ・歴史的視野に立って、我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて理解し、その知識を身につけているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問評価 ・授業ワーク ・定期考査

